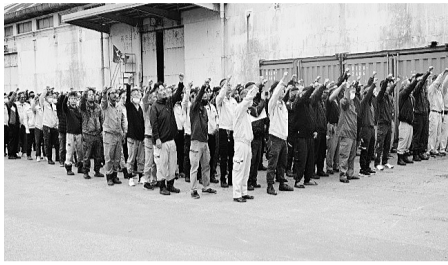


各地区港湾で26春闘決起集会を開催!



沖縄港湾

沖縄港湾と港運同盟九州地本合同で3月30日18時から26港湾春闘決起集会を新港ふ頭2号倉庫前で開催した。

冒頭、港運同盟玉城委員長より「港湾産別制度の確立は、全港湾として港運同盟が連帯して取り組まなければならない」沖縄港湾からは「港運同盟との連帯で一部であるが産別協定の履行を勝ち取る事ができた。今春闘も中央情勢を踏まえながらも地区として連携強化を進めて行く」との発言があった。

尚、本集会上には港運同盟と沖縄港湾の組合員総勢350名が参加した事を報告する。

神戸港湾

神戸港湾は3月31日早朝、神戸ポートオアシスに於いて春闘決起集会を開催した。

当日、雨が降りしきる中にもかかわらず、多くの組合員が集まった。

冒頭、吉岡議長から全国港湾26春闘勝利に向けて団結と結束を呼びかけられ、続いて港運同盟兵庫地本より連帯と激励の挨拶をいただいた。

その後、西澤事務局長からこれまでに至る中央団交の経過、並びに今後の動きについての報告がされ、藤原副議長、谷口幹事2名によるシユプレヒコールがおこなわれた。

閉会の挨拶を福田副議長より締めくくられ、最後は吉岡議長の団結頑張ろうで終了した。

全横浜港湾

全横浜港湾は3月31日18時30分より波止場会館に於いて総勢76名参加の下、春闘決起集会を開催した。

本集会上は、現場の実態と課題を共有しながら、今春闘に向けた意思統一と闘争



体制の確立を図る重要な場となった。

特に、中央闘争との連動を軸に、産別協定の遵守徹底、労働条件の底上げ、安全・労働環境の改善に向けて、横浜地区として主体的に闘いを強化していく方向性を確認した。

今後、全港湾の方針のもと、組織的かつ統一的な闘争を推進し、要求実現に向けて取り組みを強化していく。



鹿児島港湾

鹿児島港湾は4月1日18時から全港湾鹿児島支部事務所に於いて春闘決起集会を開催した。

開会に当たり、委員長より「今日は年度末、離島向け引越し貨物等で多忙な中、多数お集まり頂き誠にありがとうございます。さて、鹿児島港は国際貿易と奄美沖縄フェリーの要衝であり、組合員一人ひとりの労働が港湾を支えている。26春闘は、燃料高騰や物価上昇に負けない生活を守る闘いだ。全国港湾と連帯し、粘り強く交渉を進めよう」と力強い挨拶があった。

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会 COOP



全国港湾の春闘方針(大幅上げ、合理化反対、安全第一)が紹介され、「次の世代に誇れる港湾労働を継承したい」、各単組代表から「団結して必ず勝利する」との強い意志が表明され、最後に全員で「団結力ンパロー」を三唱し、春闘勝利への決意を固め、解散となった。

「港湾を兵站基地にするな!」 「港湾労働者と戦争を考える」

4月15日 第5回中央団交 基本合意をうけて

4月15日開催の第5回中央団交で港運労使は26春闘について基本合意を行いました。(概報とおり)この基本合意を受けて一連の特定利用港湾に係る課題について次の内容の基本合意を行いました。

①特定利用港湾に関し、港湾運送事業への影響などについて、防衛省・自衛隊海上保安庁など関係行政に港運労使への説明会の開催を求め、港湾施設の利用に際しては、港湾運送事業に影響を与えないよう必要な対策を港運労使で要請する。

②なお、上記の取り組みは、港湾労働者の生命と安全確保に資するものとする。このように我々の使用者団体である日港協は当初の単なる学習会開催のみという我々とは大いに隔たりがあった考えから一定の前進をみるに至りました。

しかし、私としては本基本合意内容を以て「港湾を兵站基地にするな!」という我々の根本的な方針考え方については、仲間の皆様におかれましてはご批判もあろうかと考えますが、私としては全ての関係者に利用港湾に多数の港が指定されてしまふなか、あくまでもその実情に沿った我々港湾労働者の生命と安全確保に資するという内容の協定であるといえます。

よって、我々のいう「港湾を兵站基地にするな!」

「戦争断固反対」の取り組みについて更なる取り組みの強化をこの26春闘基本合意を踏まえて講じていく必要性に駆られています。どうか仲間の皆様におかれましては、本取り組みの成就に向けてかわらぬ団結の力を賜りますようお願いいたします。

竹内 一 (全国港湾委員長)

リレー随筆

「もしスマホがなかったら」

教宣部の金井です。今回教宣部で初めてリレー随筆を担当する運びとなりました。

もしスマホがなかったら、私たちの社会はどうなるだろう。

連絡は遅くなり、情報はすぐには届かない。仕事のスピードも、今ほど速くは回らないかもしれない。便



利さに慣れた身としては、正直かなり不便利だ。けれど同時に、少しだけ空気が変わる気もする。今は常に「つながっている」ことが前提だ。既読がつけば返事を期待し、ニュースは次々と流れ込み、仕事も休日も境目がいまいになる。便利さは、私たちの時間まで細かく刻みよようになった。

スマホがなかった頃、情報は今ほど多くなかった。だからこそ、自分で考える余白があったように思う。今は常に「つながっている」待つ時間も、迷う時間も、すぐに答えが出ない時間もある。その時代の一部だった。

災害時の情報共有や、遠くの家族との連絡など、スマホが支えているものは確かに大きい。でも、よく考えるとスマホはなかった。電車の中では

ぼーっと窓の外を見たり、広告を端から端まで読んだりあればあれで、意外と悪くなかった。もちろん便利さはありがたい。調べものは一瞬だし、写真もすぐに撮れる。けれど、もしスマホがなかったら、もう少し人の顔を見て話していたかもしれない。空を見上げる回数も増えていたかもしれない。

もしスマホがなかったら、社会は少し不便利になる。でも、人と人の距離は、もしかしたら今よりの穏やかになるのかもしれない。便利さを手放すことはないだろう。それでもときどき画面から目を離してみる。私たちが本当に大切にしたいものは何か、考える時間くらいは持っていたいと思う。